

局 施 策 評 価 票

平成 **21** 年度実施施策

A時点: -	B時点: -	C時点: 22. 7月

局名 **企画文化局**

基本計画	柱	アジアのなかで成長する
	大項目	アジアを中心とした国際戦略の推進
	取組みの方針	学術_文化・スポーツ交流の拡大

担当局 / 総務担当課名	企画文化局	企画課
連絡先	582 - 2153	

21年度計画

-1-(2)-

施策名 **文化・スポーツ交流の拡大**

施策の概要	何(誰)をどのような状態にしたいのか。	子どもから高齢者までの幅広い年齢層を対象として、文化や芸術、スポーツなどの分野において、海外の都市との交流を進めます。
	その結果、実現を目指す取組みの方針名	学術_文化・スポーツ交流の拡大

施策の成果	成果指標 (上段:指標名、下段:指標設定の考え方)		現状値		平成21年度	目標値	
	年度	平成20年度	計画	実績		年度	平成25年度
	米国、中国、韓国、ベトナム姉妹都市等交流事業の参加者延べ数		計画	350 人	年度	平成25年度	
	多くの市民の方々に、外国の方々と触れ合ってもらい、異文化理解を促進します。そして更なる交流の拡大に努めます。	現状値	320人	実績	400 人	目標値	430人
				達成度	114.3 %		
		年度		計画		年度	
		現状値		実績		目標値	
				達成度	%		
コスト	A時点 - B時点 - C時点 22.7月 [21年度:執行額]		事業費	10,124 千円	構成事業にかかった人件費の目安(21年度)		
			うち一般財源	千円	28,050 千円		

局施策に対する担当局の評価

局施策の評価	21年度評価	主な分析理由
成果指標の結果を踏まえ、構成事業の評価結果なども考慮し評価を行う。	B	市内の団体や学校など、各自で文化・スポーツ交流をしており、市としてはサポート役に徹している状況です。 平成21年度は、タコマ市・ノーフォーク市姉妹都市提携50周年、大連市友好都市提携30周年、ベトナム・ハイフォン市交流協定の調印など、本市の国際交流の節目となる年となりました。交流事業の中でも、特にタコマ市とは交流親善高校野球大会を実施し、ノーフォーク市は「ボイス・オブ・バージニア北九州公演」と題したミュージカルショーを開催しました。
		今後の局施策の方向性 周年事業の一環ではあるもの上記のとおり本市でイベントを開催できたことは、文化・スポーツ交流を拡大させるひとつの契機となります。今後も積極的に国際交流を続けていく中で、文化・スポーツの交流の場を創出できるよう努めていく必要があります。

【局施策評価】 A:大変良い状況にある B:概ね良い状況にある C:概ね良い状況とまでは言えない D:不十分な状況にある

評価担当部署の意見

適切な評価 下記のとおり

目標値の考え方を示すことが必要と考えます。

施策名 文化・スポーツ交流の拡大

構成事業名	事業費			事業にかかった 人件費の目安 (21年度)	経費分類 裁量的経費 義務的経費 特別経費(重点) 特別経費(臨時)	今後の方向性			
	C時点[21年度:執行額]					21年度			21年度
姉妹・友好都市交流事業(再掲)			10,124 千円	28,050 千円				ア	
事業費のうち一般財源			千円						
事業費のうち一般財源			千円						
事業費のうち一般財源			千円						
事業費のうち一般財源			千円						
事業費のうち一般財源			千円						
事業費のうち一般財源			千円						
事業費のうち一般財源			千円						
事業費のうち一般財源			千円						
事業費のうち一般財源			千円						
事業費のうち一般財源			千円						
事業費のうち一般財源			千円						
事業費のうち一般財源			千円						
事業費のうち一般財源			千円						
事業費のうち一般財源			千円						

局施策全体のコスト	21年度	
	事業費	人件費(目安)
施策全体の事業費のうち一般財源	10,124 千円	28,050 千円

局施策の
21年度評価

B

【局施策評価】
A: 大変良い状況にある
B: 概ね良い状況にある
C: 概ね良い状況とまでは言えない
D: 不十分な状況にある

【事業の今後の方向性】 ア: 事業の見直しを図ることが可能 イ: 休止・廃止を検討 ウ: 現状のまま進めることが適当 エ: 終了

事業評価票

平成21年度実施事業	新規	継続

A時点: -	B時点: -	C時点: 22.7月

担当局/課	企画文化局	アジア交流課
連絡先	582 - 2162	

基本計画	柱	アジアのなかで成長する
	大項目	アジアを中心とした国際戦略の推進
	取組みの方針	学術・文化・スポーツ交流の拡大
	主要施策	文化・スポーツ交流の拡大

関連計画	
事業期間	
経費区分	

- 1 - (2) -

事業名	姉妹・友好都市交流事業(再掲)	
-----	-----------------	--

事業の概要	何(誰)をどのような状態にしたいのか。	子どもから高齢者までの幅広い年齢層を対象として、文化や芸術、スポーツなどの分野において、海外の都市との交流を進めます。		
	その結果、実現を目指す施策名と成果	施策名	文化・スポーツ交流の拡大	成果
				米国、中国、韓国、ベトナム姉妹都市等交流事業の参加者延べ数

目的実現の為に実施する内容	実施工程	当初計画	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	計画変更理由		
		現状	米国、中国、韓国、ベトナム姉妹都市等交流事業参加者延べ人数 350人	370人	390人	410人	430人			
	実施状況	成果・活動指標 (上段:指標名、下段:指標設定の考え方)						平成21年度	目標	
		米国、中国、韓国、ベトナム姉妹都市等交流事業の参加者延べ数						計画	350 人	年度
		年齢を問わず幅広い層の方々に、スポーツ、文化、芸術など様々な分野での交流事業を通じて、外国の方と触れ合うことで交流を深めてもらいます。						実績	400 人	内容
						達成度	114.3 %	430人		
コスト	A時点 - B時点 - C時点 22.7月 [21年度:執行額]						事業費	10,124 千円	事業にかかった人件費の目安(21年度)	
							うち一般財源	千円	28,050 千円	
単年度計画	[図表: 単年度計画の推移]									

【事業の実施結果・進捗状況の確認】	
実施結果	21年度に実施した結果、当初計画(実施工程)に対する進捗状況はどうか。 計画されていた事業などを滞りなく効率的に実施することができました。これらの事業を通じて、今後の姉妹友好都市交流事業に大きく貢献することができると考えます。

【事業の再検証】			
評価	有効性 この事業は施策の実現に対し、効果があったのか。	4	文化やスポーツなど様々な文化交流をおこなうことで市民の異文化への理解を深めるだけでなく、経済的な交流も行われるようになっていきます。
	経済性・効率性 同じ効果をより低いコストで得られないか。または、同じコストでより高い効果を得られないか。	3	市単独で事業を実施するのではなく、官民連携で行っているため、経済性・効率性は非常に高いと考えられます。
	適時性 今実施しなかった場合、施策実現に対する影響はどうか。	3	多文化共生の社会を目指す本市にとって、様々な分野の異文化交流を継続させることは重要です。
	市の関与の必要性 実施主体として市が適切なものか、市の関与をなくすることはできないのか。	4	幅広い市民に分け隔てなく交流する機会を提供することが求められる事業であることから、市が主体となり幅広い活動を繰り広げることが求められます。
今後の方向性	評価結果を検証した上で、今後の事業の方向性(いつから何をどうするのか)を決定する。 ア:事業の見直しを図ることが可能 イ:休止・廃止を検討 ウ:現状のまま進めることが適当 エ:終了	ア	市民の間での様々な交流は、継続的に行うことが重要です。今後、姉妹友好都市を中心に定期的に交流を続けることで、北九州市民の多文化への理解と知識を向上させ、国際政策の一つとして掲げる「多文化共生のまちづくり」を推進する上での土台づくりになると期待されます。